

第9回第三者委員会の意見と対応方針(案)

平成 3 0 年 7 月 2 6 日

農 林 水 産 省

第9回第三者委員会の主な意見と対応方針(案)

区分	意見	委員名	対応方針(案)
中間評価	活動組織のリーダーを育成することが重要な課題。今、リーダーとして役割を果たしている方たちが、人材としてどういう特徴を持っているか、客観的にどういうタイプの方なのか把握することが重要。	鷲谷委員	活動組織に対して聞き取り調査を行い、その調査結果を集計し、リーダーの特徴等について分析する。 【資料2 p.1～2】
活動組織アンケート分析結果	農地・水・環境保全向上対策から取組を開始している活動組織と比較して、後から取組を開始した活動組織は、女性会等の参画割合が低い。女性会等の参画割合が低下している背景等を整理されたい。	山崎委員	女性会等の参画割合低下の背景について、過年度の取組状況等を分析し整理する。 【資料2 p.3】
	女性や子供が入って地域が元気になるのは目指すべき姿。どうすれば女性や子供が地域の活動の中に入ってこられるか検討されたい。	河野委員	活動組織の役員等をしている女性との意見交換会の結果を基に、女性等の参加を増やす方法等を整理する。 【資料2 p.4】
	子供会の参画がいろいろな活動の代表的な指標になっているのかもしれないので、少し深掘りしてほしい。	中嶋座長	活動組織の構成員として子供会が参画している組織と参画していない組織を比較し、子供の参画する活動組織の特徴を整理する。 【資料2 p.5】
活動組織による自己評価と市町村評価	Step0と自己評価した活動組織に対して、ステップ引き上げのために市町村が行っている指導が、まだ話し合いの場を持つための体制を整えている段階の活動組織にとって、役に立つアドバイスになっているかどうか検証されたい。	河野委員	H28自己評価(2年目評価)でStep0と評価した活動組織のうち、市町村から「指導又は助言が必要」又は「計画の見直しが必要」との評価を受けた活動組織を対象に聞き取り調査を行い、市町村からの指導等によりどのように変化したかを分析する。 【資料4 p.19～24】
活動組織のプロセス事例集の拡充	中間評価で課題となったリーダーの後継者の育成、活動組織の維持・拡大・運営に資する取組を事例集としていろいろ取り上げれば、この課題に悩んでいる皆さんのヒントになる。	山崎委員	リーダーの後継者となる人材の育成など、活動組織の持続的な運営に係る取組や、災害発生後に行った復旧・復興に向けた取組等の事例を整理する。 【資料5】
	例えば、福島県では、風評の影響などで苦労されている。多面的機能支払の取組を震災の復興に役立たせることができるのであれば、是非活用していただきたい。	山崎委員	
	施設の管理や復旧だけでなく、そこで生産しているものを販売していく上で、多面的機能支払の活動が、何か後押しにならないか。事例があれば挙げていただきたい。	中嶋座長	

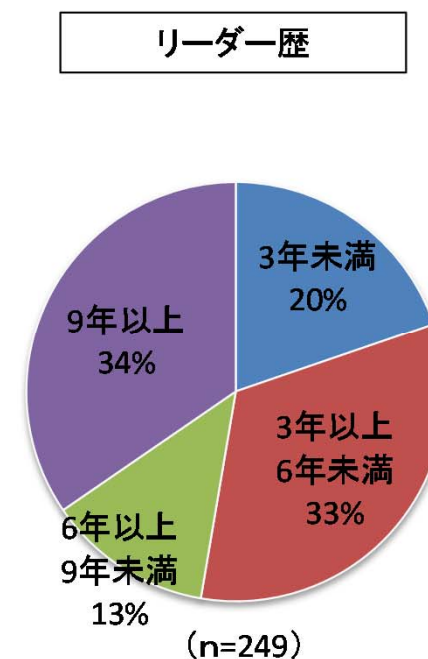
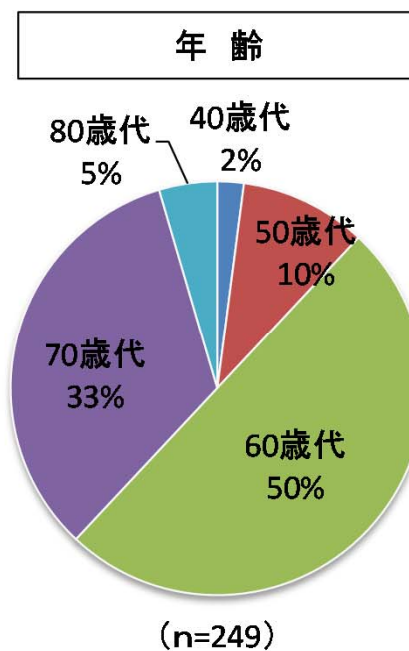
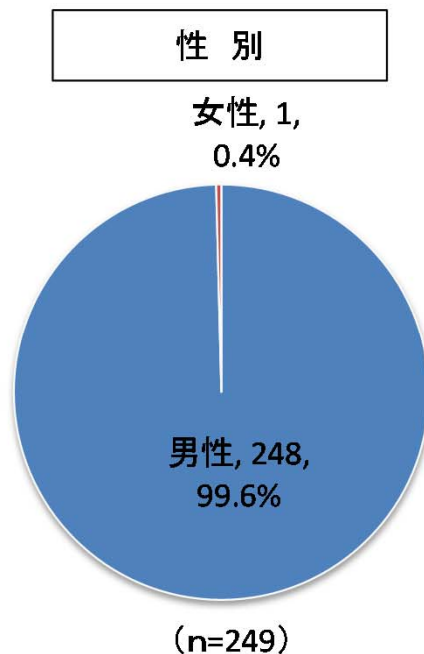
第9回第三者委員会の主な意見と対応方針(案)

区分	意見	委員名	対応方針(案)
多面的機能支払交付金における施策評価の進め方	市町村への取組意向調査の中に、以下3点を入れてほしい。 ①人材バンク等の紹介ができているか、②組織の活動が別の産業の別の側面で生きているかどうか、③事例集は市町村が担っている指導・助言の役割に役立つのではないかな。	河野委員	活動組織がある市町村の担当者に対して9月末までに聞き取り調査を行い、その調査結果を集計し、市町村の意向等について分析する。 【次回(第11回第三者委員会)で報告】
	多面的機能支払の評価をするときに、産業政策との関連の中で、この施策がどういう意味を持っているのか、第三者委員会で議論する必要がある。県・市町村レベルの他の分野の施策担当者がどう見ているか、情報を集め、議論の素材にできれば、施策評価の一つの視点が得られる。 多面的機能支払を活用している方々が、産業政策の部分と、地域政策の部分のどちらに期待しているか、そういった調査項目を入れてほしい。	水谷委員	産業政策と地域政策のどちらに期待しているか、又他分野の施策担当者が多面的機能支払をどう見ているかについて、活動組織がある市町村や県の担当者に対して9月末までに聞き取り調査を行い、その調査結果を集計し分析する。 【次回(第11回第三者委員会)で報告】
	事務手続に係る調査で、ICTをどのくらい利用しているか調べてほしい。	中嶋座長	事務手続におけるICTの利用状況について、活動組織に対して9月末までに聞き取り調査を行い、その調査結果を集計し分析する。 【次回(第11回第三者委員会)で報告】

1 活動組織のリーダーとして役割を果たしている人材の特徴

(1)リーダーの属性について

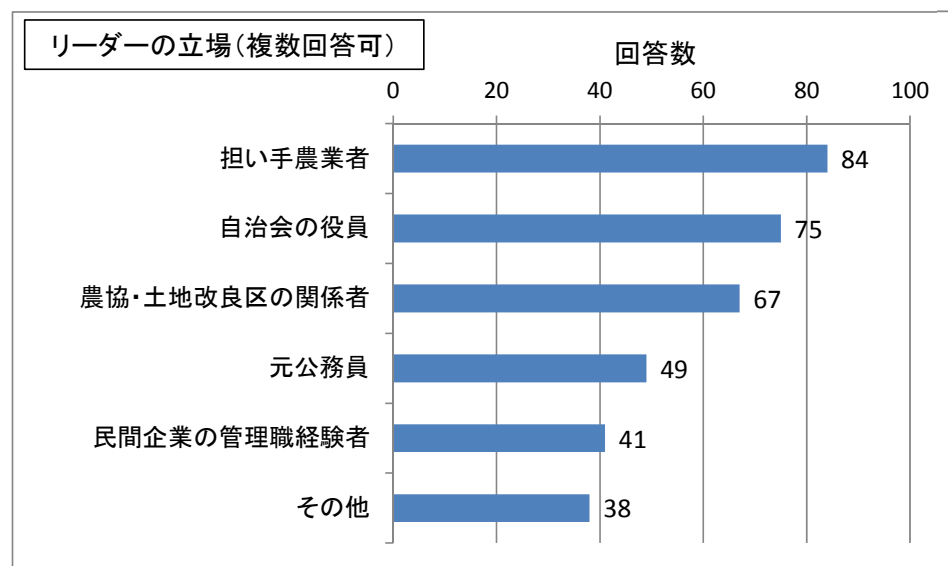
- 無作為に抽出した活動組織249組織を対象に、リーダーの特徴等について聞き取り調査を実施。活動組織のリーダーの性別は、ほとんどが男性（99.6%）で、女性リーダーのいる活動組織は調査対象249組織のうちわずか1組織（0.4%）であった。
- リーダーの年齢層をみると、60歳代（50%）と70歳代（33%）の割合が高く、両世代合わせて83%を占めている。
- リーダー歴をみると、9年以上（34%）が最も多く、次いで3年以上6年未満（33%）となっており、5年前後、10年前後のリーダー歴をもつ人が多い。最近リーダーとなった3年未満の人は20%であった。



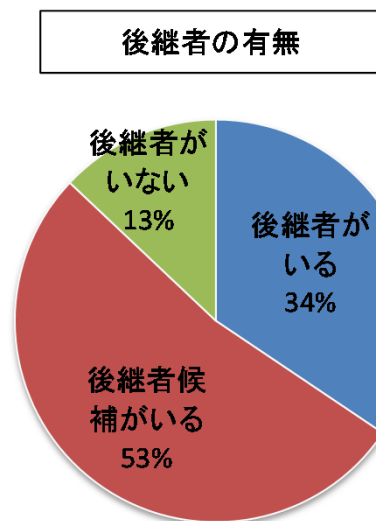
資料：平成30年度活動実態調査より作成

(2)リーダーの立場、リーダーの後継者となる人材育成のための取組について

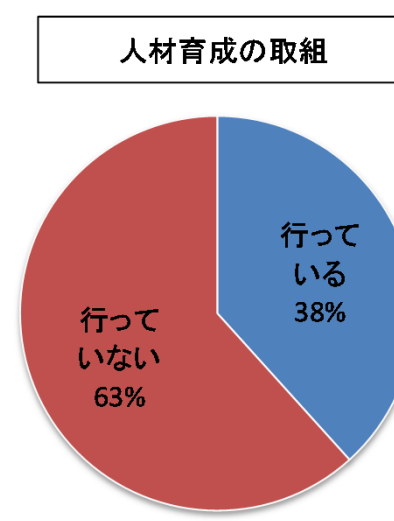
- リーダーの立場としては、担い手農業者が84人と最も多く、次いで自治会の役員が75人、農協・土地改良区の関係者が67人となっており、主に農業関係者、地域の指導的立場の方が多い。
- リーダーの後継者となる人材の有無については、「後継者がいる」が34%、「後継者候補がいる」が53%となっており、合わせて87%の活動組織において、後継者の目途がついている。
- リーダーの後継者となる人材の育成のための取組については、およそ4割の活動組織で行われているおり、具体的な取組内容としては、「組織役員等として経験を積んでいる」、「活動への参加を通じて指導・知識伝達を図っている」など、主に実践を通じた育成策が多く行われている。また、「現リーダーと一緒に研修に参加している」との回答もあった。



(n=248)



(n=247)



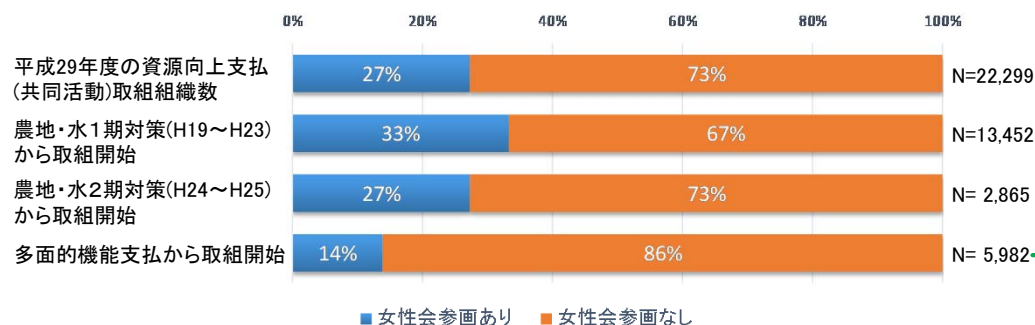
(n=248)

資料：平成30年度活動実態調査より作成

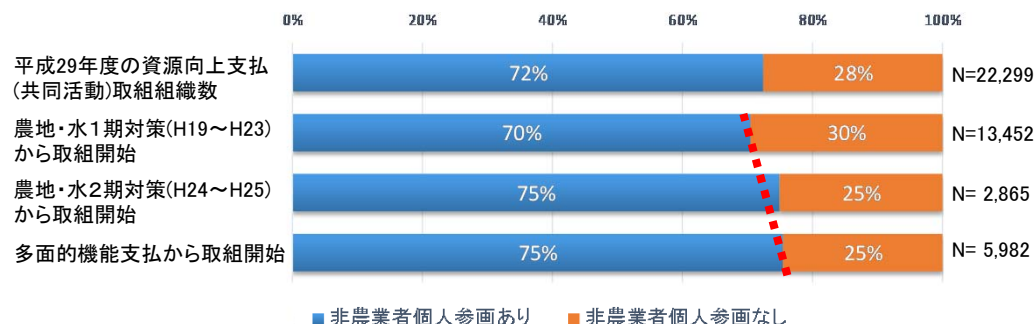
2 農地・水・環境保全向上対策からの多様な主体の参画割合の推移

- 女性会が参画している活動組織の割合について、取組開始時期が近年になるに従い低下する傾向が見られている。この背景について分析するにあたり、多面的機能支払から取組を開始した活動組織について、農業地域類型ごとに女性会の参画割合を整理した。
- その結果、平地農業地域における女性会の参画割合が18%となっているのに対し、都市的地域や中間農業地域、山間農業地域における女性会の参画割合は12～13%となっている。
- 女性会など各種団体の参画割合が、取組開始時期が近年になるに従い低下傾向にある一方で、非農業者個人が参画している活動組織の割合は、取組開始時期が近年になるに従い増加する傾向が見られる。活動組織が、女性会等の非農業団体を組織の構成員として加入させるのではなく、非農業者を個人で組織の構成員として参画させる傾向が見える。

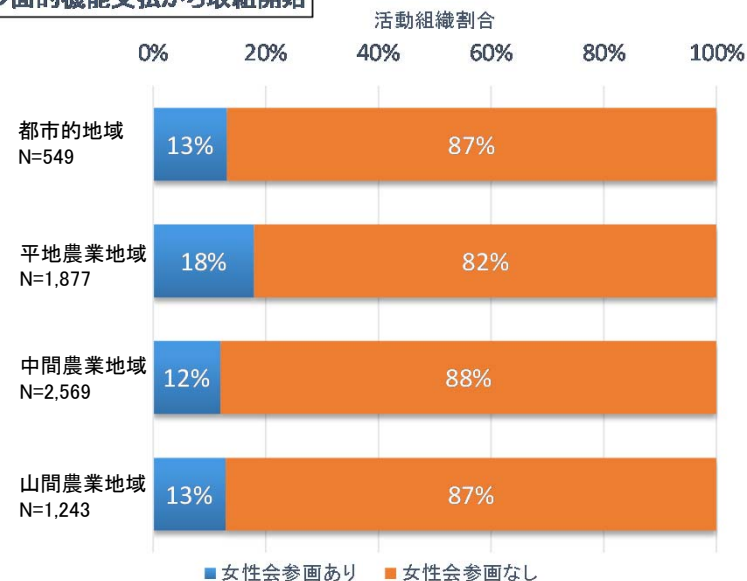
女性会の参画割合の推移



非農業者個人の参画割合の推移



多面的機能支払から取組開始



※非農業者個人の参画割合の推移について、独立性の検定を用いて検定した結果、農地・水1期対策(70%)と多面的機能支払(75%)との間で、有意差が認められた。

資料：平成29年度実施状況報告書より作成

3 本交付金の活動への女性参加の拡大について

- 本交付金の活動への女性の参加割合が低いことから、平成28年から北海道、東北等各地域において、活動組織の役員等をしている女性を対象に、活動に係る女性活躍の場を拡大するための方策を検討するための意見交換会を実施した。
- 意見交換会では、「活動組織の役員に女性がいれば、女性が意見を言いやすくなる」や「女性が活躍しやすい取組内容を前面に出すことで、女性の積極的な参加を促すことができる」等との意見が出された。
- この結果を踏まえ、研修等へ女性が参加するよう啓発を進め、研修ごとに女性の活躍事例を情報発信している。
- また、女性の参加促進のためのパンフレット等を作成し、配布する予定。

「活動における女性活躍の場を拡大するための方策」に関する主な意見

- 活動組織の役員に女性がいれば、女性が意見を言いやすくなり、活動の幅が広がる。
- 女性が活躍しやすい取組内容（環境美化、子ども会との連携、食に関連したイベント等）を前面に出すことで、女性の積極的な参加を促すことができる。
- 他の活動組織での女性の取組が分からないため、女性が活躍している事例等を情報発信することが重要。
- 女性が声かけすることにより、参加しやすい雰囲気となり、活動への参加者が増える。
- 研修や会合などは、女性の参加を促す案内があれば参加しやすくなる。

女性が活躍している事例

○多気町勢和地域資源保全・活用協議会（三重県多気町）

小学校・図書館・地域が連携し、遊休農地を活用した体験学習『おめさんかなあプロジェクト』を女性が中心となって企画。子ども達は、大豆の種まきから収穫、豆腐や味噌等の伝統食作りを体験することにより、地域社会とのつながりを深めながら、農業の大切さを学習。



大豆の種まき実習



大豆の収穫作業



収穫した大豆で伝統食作り実習

○美浜町広域協定～風和里会～（福井県美浜町）

コスモスの植栽や水路への竹プランターの設置等の景観形成活動に多くの女性が積極的に参加。様々な目線で取り組みを評価・改善するために、役員会には女性も必ず参加するなど、より良い地域となるよう柔軟な活動を実践。



役員会には女性が2名以上参加

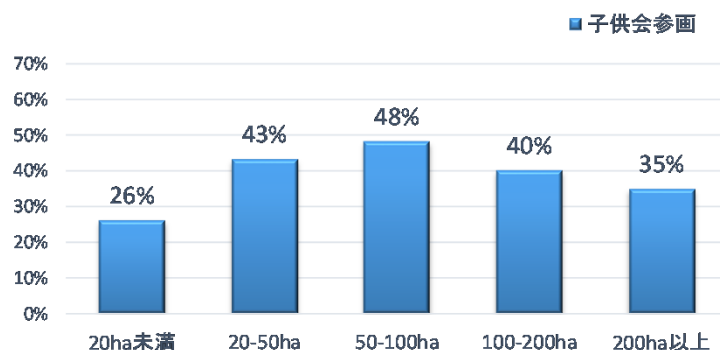


竹プランターの製作状況

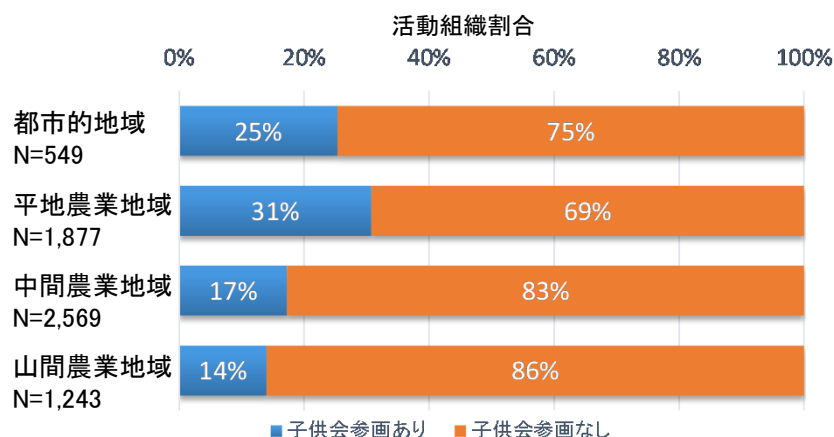
4 子供会が参画する活動組織の特徴について

- 活動組織の取組面積規模別に子供会の参画割合をみると、取組面積が50～100ha規模の活動組織での参画割合が最も高く（48%）、続いて20～50ha規模の参画割合が高くなっている。
- 農業地域類型ごとに子供会の参画割合をみると、平地農業地域が31%、都市的地域が25%となっているのに対し、中間農業地域が17%、山間農業地域が14%となっている。
- 農村環境保全活動の取組別に子供会の参画割合をみると、子供が参画している組織では、参画していない組織と比較して、「生物の生息状況の把握」を行っている組織割合が高い。
- 地域資源の適切な保全管理のための推進活動（以下、「推進活動」という。）の取組別に子供会の参画割合をみると、子供が参画している組織では、参画していない組織と比較して、「地域住民等との意見交換会等」を行っている組織割合が高い。

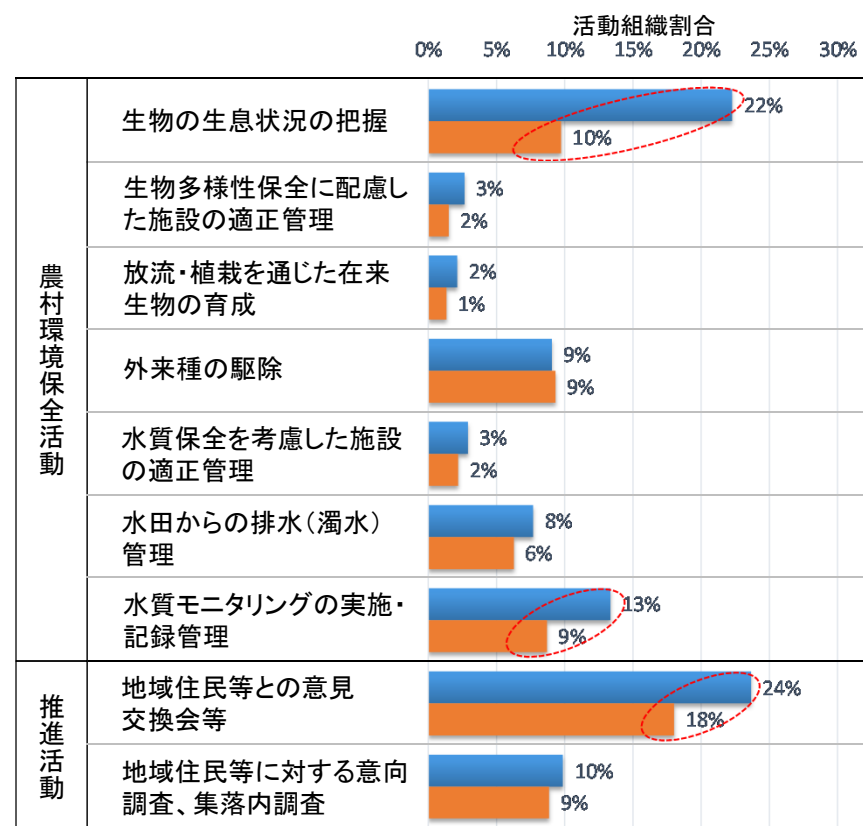
取組面積規模別に見た子供会の参画割合



農業地域類型別に見た子供会の参画割合



農村環境保全活動及び推進活動の取組別参画割合



■ 子供会参画あり ■ 子供会参画なし

資料：平成29年度実施状況報告書より作成